

# 4 社会

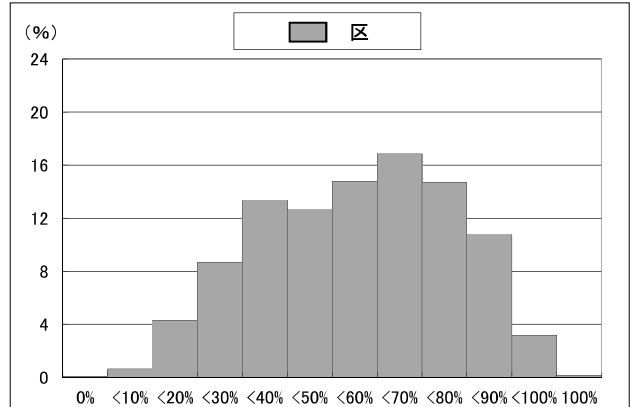
## (1) 中学校社会

### 1 結果概要

#### ① 領域・観点別正答率表

分類	区分	平均正答率 (%)
		区
基礎・活用	教科全体	55.5
	基礎	58.5
	活用	45.9
領域	日本の地域構成	52.6
	世界と比べた日本の地域的特色	54.2
	日本の諸地域	63.0
	身近な地域の調査	55.1
	近世の日本	50.7
	近代の日本と世界	57.4
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	56.3
	社会的な思考・判断・表現	49.8
	資料活用の技能	56.7
	社会的事象についての知識・理解	57.2

#### ② 正答率度数分布 (横軸：正答率、縦軸：割合)



中学校社会科は、平均正答率は55.5%で、70%以上は29問中6問であった。

領域別に見ると、「日本の諸地域」が63.0%と最も高く、「近世の日本」が50.7%と最も低かった。

### 2 課題と授業改善の手だて

#### 【課題】

今年度、区正答率が30%台と低かった6問のうち、設問2(2)、設問3(3)、設問8(3)は、いずれも複数の資料を読み取り、分かったことを基に判断したことを選択肢から選ぶ、あるいは記述する問題である。このような内容の問題を苦手としている生徒には、資料を読み取る力や複数の資料を基に判断し表現する力に課題があると考えられる。設問2(2)は、鉄鉱石の自給率と主な輸入先を問うものであるが、この設問では帯グラフから必要な情報を読み取る力と鉄鉱石の主な輸入先の知識が必要となる。設問3(3)は、工業地帯・地域別の出荷額の推移を折れ線グラフから、出荷額の内訳を帯グラフから読み取り、地図上の工業地帯・地域と結び付けることが求められている。設問8(3)は、年表に示された出来事と時代の様子についての文章から、判断した理由を記述することが求められている。資料の単純な読み取りだけでなく、読み取ったことを基に考えたり、考えたことを表現したりできるようにするためには、段階に応じた次のような指導方法が考えられる。

#### 【授業改善の手だて】

資料から情報を正確に読み取るためには、生徒にとって資料を丁寧に読み取ることが必然となるような場面設定と、読み取り方についての適切な指導が必要になる。その際、資料や活動の難易度を発達段階に応じて変えていくと効果的である。例えば、小学校中学年の段階で単純なグラフや地図の読み取り方を丁寧に指導し、そこから学年を重ねるにつれて情報量の多い資料を読み取ったり、複数の資料を関連付けて判断したことを表現したりする学習活動を計画的に設定する。読み取ったことを基にペアやグループで話し合い、自分の判断の根拠となることを説明したり、友達の説明を聞いて自分の判断について再検討したりする活動も効果的である。

設問8(3)のような問題に対しては、日常的に資料から読み取った複数の事実から判断したことを短文で書いたり、書いたことを基に説明したりする学習経験を積み重ねておくことが効果的である。例えば、このような学習活動を一単位時間のまとめや、単元のまとめの段階に計画的に取り入れることで、生徒の表現する力を伸ばしていくことができる。

以上のことを踏まえ、日々の授業においては、個々の生徒が学習過程のどの場面つまづいているのかを丁寧に把握し、指導に生かすことが大切である。例えば、資料から読み取ったことを書く欄と、それを基に判断したことを書く欄に分けたワークシートを作成し、計画的に授業で使用していくなどすることで、個々のつまづきの段階を見取り、一人一人の状況に応じた適切な指導を行うことができる。

3 設問別集計結果一覧表

設問番号	解答形式	観点				活用観点	領域	出題のねらい	類型番号(選択肢番号)別出現率					区正答率	
		関	思	技	知				1	2	3	4	類型外解答		無解答
1	(1) 選	○	◎	○	○		日本の地域構成	都道府県と都道府県庁所在地について、地図をもとに把握することができる。	1.9	4.5	19.4	74.0	0.0	0.2	74.0
	(2) 短				◎			日本の領域について理解している。	48.3	3.6			29.4	18.6	50.2
	(3) 選	○	◎	○	○	思		かつて日本に存在した時差について、経度や経緯の理解をもとに、資料を読み取って判断することができる。	28.8	23.9	33.6	13.1	0.1	0.6	33.6
2	(1) 選		○	◎	○		世界と比べた日本の地域的特色	日本の川とダムについて、世界と比較した資料をもとに、その特色を把握することができる。	4.4	58.9	6.6	30.0	0.0	0.1	58.9
	(2) 選		◎	○	○			日本の資源の自給率や輸入先について、複数の資料をもとに判断することができる。	32.0	16.4	36.8	14.4	0.0	0.3	32.0
	(3) 選	○	◎	○	○			日本各地を結ぶ交通について、特色をふまえて考察することができる。	7.7	71.7	4.0	16.4	0.0	0.3	71.7
3	(1) 選			○	◎		日本の諸地域	日本各地の地形について理解している。	75.7	10.4	6.9	6.8	0.0	0.2	75.7
	(2) 選			◎	○			中部地方の農業について、資料から把握することができる。	7.1	10.2	9.1	72.9	0.1	0.6	72.9
	(3) 選		◎	○	○	思		関東地方の工業地域について、複数の資料を関連づけて判断することができる。	18.2	34.6	28.4	17.1	0.0	1.6	34.6
	(4) 短	○			◎			世界遺産について理解している。	77.7	5.8			7.5	9.0	80.6
	(5) 選	○	◎	○	○			日本の諸地域について、生活・文化を中核とした考察の仕方をもとに、適切な学習計画を立てて探究することができる。	15.6	61.3	11.4	10.7	0.0	0.9	61.3
4	(1) 短	○		◎	○		身近な地域の調査	地形図から標高を読み取ることができる。	42.0				47.5	10.5	42.0
	(2) 選		○	◎	○			地図記号や方位などの理解をもとに、地形図を読み取り、地域の特色を把握することができる。	12.5	5.8	12.9	68.2	0.0	0.5	68.2
5	(1) 短	○		◎	○		近世の日本	複数の資料から、豊臣秀吉の統一事業について把握することができる。	60.6	2.6			25.1	11.6	61.9
	(2) 選	○	◎		○			核地と刀狩による影響について判断することができる。	9.5	25.6	58.6	5.8	0.0	0.5	58.6
	(3) 選		◎		○			16世紀のキリスト教に関連する史実について判断することができる。	34.8	22.7	23.2	18.1	0.0	1.3	34.8
	(4) 短				◎			安土桃山時代の文化について理解している。	37.9	1.1			37.9	23.1	38.4
6	(1) 選			○	◎		近世の日本	鎖国への歩みについて理解している。	12.4	17.3	5.5	61.4	0.0	3.3	61.4
	(2) 選				◎			江戸幕府による大名統制について理解している。	15.3	6.0	65.3	9.8	0.0	3.6	65.3
	(3) 短				◎			江戸時代の都市の発展に関連して、株仲間について理解している。	46.4	1.4			27.8	24.5	47.0
	(4) 選		◎		○			江戸時代の農業の発達による影響について考察することができる。	10.4	15.9	53.6	16.4	0.0	3.7	53.6
	(5) 選	○	◎	○	○	思		開国による日本の社会への影響について、複数の資料をもとに判断することができる。	51.0	24.6	10.6	9.6	0.0	4.2	51.0
7	(1) 短	○		◎	○		近代の日本と世界	複数の史実から、明治政府のめざした政策について把握することができる。	50.0	1.6			22.1	26.3	50.8
	(2) 選		○		◎			西南戦争が起こった背景について理解している。	18.5	50.9	16.8	10.0	0.0	3.8	50.9
	(3) 選				◎			大日本帝国憲法の草案を作成した伊藤博文について理解している。	11.1	76.9	6.0	2.2	0.0	3.7	76.9
	(4) 選	○	◎	○	○	思		地租改正の実施による影響について、複数の資料をもとに考察することができる。	9.6	10.7	23.5	51.2	0.0	4.9	51.2
8	(1) 選	○	◎	○	○	思	日本の諸地域	中部地方における特色について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに、気候に関連する複数の資料から探究することができる。	7.8	13.7	63.8	9.7	0.0	5.0	63.8
	(2) 述	○	◎	○	○	表		九州地方における政策について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに、地域の課題に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。	36.8	7.6	15.6		10.6	29.3	52.2
	(3) 述	○	◎	○	○	表		江戸時代の文化の発展に寄与した人物について、当時の政治や社会に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。	19.8	30.0			13.4	36.8	34.8

【解答形式】(選) 選択式、(短) 短答式、(述) 記述式

【観 点】(関) 社会的現象への関心・意欲・態度、(思) 社会的な思考・判断・表現、(技) 資料活用の技能、(知) 社会的現象についての知識・理解  
 (◎: 主たる観点、○: 従たる観点)

【活用観点】(思) 思考・判断力、(表) 表現力

【類型番号(選択肢番号)別出現率】 凡例: 99.9...正答 99.9...準正答

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	出題のねらい
大問8(3)	江戸時代の文化の発展に寄与した人物について、当時の政治や社会に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明することができる。

【解答状況】人形浄瑠璃の発展に寄与した江戸時代の四代目 植村文楽軒が、天保の改革の頃に大阪を離れた理由について、当時の政治や文化の様子を説明した複数の資料を基に考察し、説明する問題である。複数の資料の内容を、人物がとった行動と関連付けて捉えることが求められている。区正答率は34.8%と3割台にとどまり、無解答率は36.8%と全設問中で最も高かった。正答のうち、記述の内容が不十分なものが30.0%見られた。